

一浴で多色感のあるタオル製品

— タオル製品デザイン企画手法開発研究 (R1) —

愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 田中 祐子

天然繊維と化学繊維の染色性の違いを利用して、色彩を多様に表現するデザイン企画や製織技術の検討を行い、タオル生地パレットの作製をしました。

組織の違いによる多彩性を検討するため、表1の製織条件で130種類以上の組織を試織しました(写真1)。そのうち、タオル業界で一般的に虫食いと呼ばれる組織(写真2)としてパイルの色の組み合わせが良好な組織32点を選定し、産地内企業へ配布する生地見本(写真3)を作製しました。

表1 製織条件

織機	プロジェクトイル織機(スルザー社製 P7100)
箆	48羽/3.79cm
打込本数	48本/2.54cm
パイル糸	40/2 ^S (1針:綿100%、2針:レーヨン100%、3針:ポリエステル100%)
地経糸	40/2 ^S (C100%)
よこ糸	40/2 ^S (C100%)
パイル長	8mm
箆引き込み	GP GP



写真1 組織検討パレットの一例

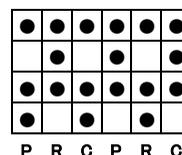


写真2 虫食い組織の一例

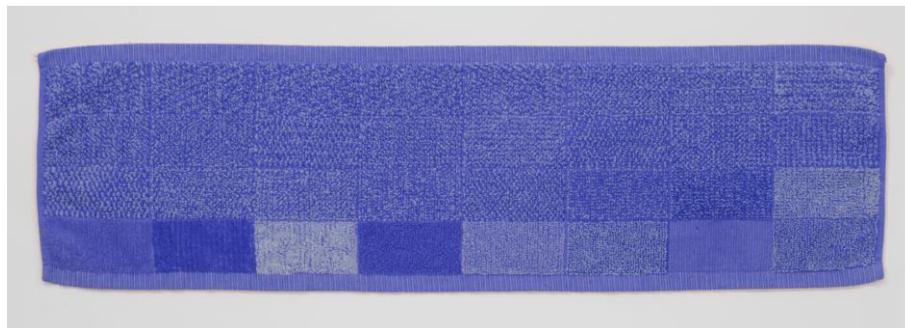


写真3 配布用生地見本

一浴でも多色感を持たせることが可能であることが確認できました。タオル製品におけるジャカード織物の多色展開において、白生地の製織のみとなり、先染め糸の掛け替え等の手間が省けるなど、製造期間の短縮が可能になりました。